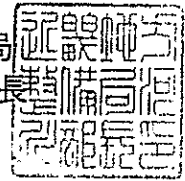




国近整河計第 24 号  
平成 15 年 7 月 30 日

兵庫県 県土整備部長 あて

国土交通省近畿地方整備局  
河川部 長



「河川整備計画策定に向けての説明資料(第1稿)」について(回答)

盛夏の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、河川事業に格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、近畿地方整備局におきましては、河川整備計画原案策定の作業を進めており、「河川整備計画策定に向けての説明資料(第1稿)」について、淀川水系流域委員会、住民、沿川自治体の皆様から多数のご意見をいただきました。貴機関におかれましても貴重なご意見ありがとうございました。

つきましては、ご意見・ご質問について別紙のとおり回答させていただきます。

担当:近畿地方整備局河川部  
河川計画課長(久保田)  
電話06-6942-1141(代表)

(第1稿) に対する自治体からのご意見の回答

課	項目	ご意見	回答
県土整備部	4.3.1 洪水(13ページ) (1) 破堤による被害の回避・軽減 2) 被害ポテンシャル軽減対策 ③下流部への流量増大の抑制対策	下線部を追加 ○無堤部 下流への流量増により破堤の危険性を増大させる無堤部築堤は築堤した場合の治水の効果の程度や下流の堤防強化の進捗状況等を踏まえて実施の判断を行う。 ○狭窄部 下流への流量増によって、破堤の危険度を増大させる狭窄部の開削は、治水安全度の上下流バランスや下流の堤防強化の進捗状況等を踏まえ、段階的な整備も含め実施の判断を行う。	下流の破堤の危険度を増大させる無堤部の築堤等は、下流の河川整備の進捗状況等を踏まえて実施の判断することが原則であります。既に一連区間の整備が進められてきており、ごく一部の区間のみが未整備である川西池田地区については、速やかに事業を完了し浸水被害の回避・軽減を図ります。 狭窄部上流の浸水被害に対しては、下流堤防の破堤危険性を増大させるような狭窄部の開削は当面できないことから、既往最大規模の洪水に対する浸水被害の解消を目標として狭窄部上流における対策を検討します。 長期的には、浸水被害を軽減する土地利用誘導等が望まれますが、当面の被害軽減処置としては、既設ダム治水強化、並びに流域内貯留施設の整備を検討します。 なお、狭窄部開削は当面実施しませんが、銀橋狭窄部上流における浸水被害軽減対策として、一庫ダムの治水機能強化等を検討し、銀橋上流の管理者である兵庫県と調整します。
県土整備部	4.3.1 洪水(13ページ) (1) 破堤による被害の回避・軽減 3) 堤防強化対策 ②応急的な堤防強化	意見 堤防強化の実施にあたっては、堤防強度や治水安全度の上下流バランスに配慮した検討を行い、下流指定区間の改修計画と整合を図るため十分な調整、協議を行われない。	神崎川の河川管理者である大阪府が策定する河川整備計画と整合を図ります。 破堤による被害の深刻さ(被害ポテンシャル)は現在も増加し続けていることから、洪水被害の頻度のみならず、その深刻さを軽減する施策をハード、ソフト両面にわたって推進しますが、狭窄部下流の治水安全度を損なわないで上流の安全度の向上を図ります。
県土整備部	4.3.1 洪水(14ページ) (2) 浸水被害の軽減 1) 狭窄部上流の浸水被害の解消	修正案 狭窄部上流の浸水被害に対しては、下流堤防の破堤危険性を増大させるような狭窄部の開削は当面できないことから、狭窄部下流の治水安全度を損なわない範囲内で、既往最大規模の洪水に対する浸水被害の解消を目標として狭窄部上流における対策を検討する。	狭窄部上流の浸水被害に対しては、下流堤防の破堤危険性を増大させるような狭窄部の開削は当面できないことから、既往最大規模の洪水に対する浸水被害の解消を目標として狭窄部上流における対策を検討します。 長期的には、浸水被害を軽減する土地利用誘導等が望まれますが、当面の被害軽減処置としては、既設ダム治水強化、並びに流域内貯留施設の整備を検討します。 なお、狭窄部開削は当面実施しませんが、銀橋狭窄部上流における浸水被害軽減対策として、一庫ダムの治水機能強化等を検討し、銀橋上流の管理者である兵庫県と調整します。
県土整備部	4.6.3 各ダムの整備方針(27ページ) (4) 丹生ダム	下線部を追加 4) 異常高水時における緊急水の補給	丹生ダム計画の見直した結果については、平成15年5月16日の第21回委員会に、琵琶湖における急速な水位低下と低い水位の長期化が生態系に及ぼす影響の軽減や、姉川、高時川の生態系や利用の観点から丹生ダムが有効であることを説明しました。 しかし、利水については水需要の精査・確認が終わっていないことや環境等の諸調査については今後、調査・検討が必要なことから、これらの調査検討を出来る限り早期に完了し、改めて流域委員会並びに、関係自治体・住民に説明し意見を頂きたいと考えています。
県土整備部	4.6.3 各ダムの整備方針(27ページ) (5) 余野川ダム	下線部を追加 1) 猪名川及び下流指定区間における洪水被害の軽減を図る。 4) 既得取水の安定化及び環境保全のための流水の確保	余野川ダム計画の見直した結果については、平成15年5月16日の第21回委員会に狭窄部上流の多田地区の浸水被害を軽減するために、一庫ダムの利水容量を振替するための貯留施設として余野川ダムが有効であること、また、下流部の浸水被害を軽減する効果があることを説明しました。ただし、利水については水需要の精査・確認がまだ終わっていないことや、環境等の諸調査について今後、調査・検討が必要なことから、これらの調査・検討を出来る限り早期に完了し、改めて流域委員会並びに、関係自治体・住民に説明し意見を頂きたいと考えています。

(第1稿)に対する自治体からのご意見の回答

課	項目	ご意見	回答
県土整備部	5.2.5 土砂(8ページ) (2)土砂移動の連続性の確保	意見 具体の対策としてどのような対策を行うか記述すべきである。	「河床材料や形状等の調査及び河床変動等といった土砂動態のモニタリングを実施し、その調査結果を踏まえ、山地流域から沿岸海域に至るまでの総合土砂管理方針について検討します。なお、土砂流出防止機能を有する森林の保全・整備の検討について、関係機関との連携を図ります。」と記述しました。
県土整備部	5.3.1 洪水(16ページ) (2)河川毎の整備内容 8)猪名川 ②浸水被害の軽減	下線部を追加 ○狭窄部上流の浸水被害の解消 ・銀橋狭窄部における浸水被害対策として、兵庫県施行の改修事業と併せた一庫ダムの治水機能強化の検討	狭窄部上流の浸水被害に対しては、下流堤防の破壊危険性を増大させるような狭窄部の開削は当面できないことから、既往最大規模の洪水に対する浸水被害の解消を目標として狭窄部上流における対策を検討します。 長期的には、浸水被害を軽減する土地利用誘導等が望まれますが、当面の被害軽減処置としては、既設ダムの治水強化、並びに流域内貯留施設の整備を検討します。 なお、狭窄部開削は当面実施しませんが、銀橋狭窄部上流における浸水被害軽減対策として、一庫ダムの治水機能強化等を検討し、銀橋上流の管理者である兵庫県と調整します。
企画管理部	5.4 利水(22ページ) (4)既存水資源開発施設の効率的運用による漏水対策の検討・実施	意見 猪名川水系一庫ダムは、平成12年、13年、14年と連続して取水制限が実施されている状況から、5.4利水で示された既存ダムの効率的運用について、早急に具体化を検討されるよう要望する。	取水実態をよりの確に把握した上で、一庫ダムによる効率的な補給(弾力的管理)について検討します。
企業庁管理局	5.4 利水(22ページ) (4)既存水資源開発施設の効率的運用による漏水対策の検討・実施	意見 水道は国民の日常生活を維持し、都市活動を支える基幹的な都市施設であり、清浄な水を常に安定して供給する使命を持っている。近年では水道を取り巻く社会環境の変化から、ますます災害や漏水に強い安定した給水が求められている。 しかし、最近の少雨傾向から、猪名川水系ではたびたび漏水に見舞われており、最近の10年間では平成6年、平成7年、平成12年、平成13年、平成14年に河川からの取水制限が実施された。特に平成14年は一庫ダムの貯水率が約8%にまで低下し、河川からの取水も過去最悪の水道、農水ともに40%の制限となった。このため、各水道事業者においても、節水の呼びかけや事業者間の水融通等の対策を行ったが、一部住民に影響が及んだところである。 については、猪名川水系に水源を持つ水道のこのような現状を理解いただき、洪水調節容量の一部を利水活用するなど、第1稿の利水の項にある、一庫ダムの効率的な運用による漏水対策の検討、および早期実施を要望する。	取水実態をよりの確に把握した上で、一庫ダムによる効率的な補給について検討します。
農林水産部	5.6.1 既設ダム(27ページ) (9)既設ダム群の再編成の検討 ・一庫ダム	意見 既設容量の再編成にあたっては、一庫ダムについて不特定用水である農業用水の確保についても留意願いたい。	ダムの運用を変更する際には既得の水利権に対して現況より悪影響が出ないよう検討します。
県土整備部	5.6.1 既設ダム(27ページ) (9)既設ダム群の再編成の検討 ・一庫ダム	意見 猪名川銀橋上流の多田地区はたびたび浸水被害が生じており、これらの解消を図るため、一庫ダムの治水機能強化について早急な検討・実施を図られるよう要望する。	余野川ダム計画の見直した結果については、平成15年5月16日の第21回委員会に狭窄部上流の多田地区の浸水被害を軽減するために、一庫ダムの利水容量を振替するための貯留施設として余野川ダムが有効であること、また、下流部の浸水被害を軽減する効果があることを説明しました。ただし、利水については水需要の精査・確認がまだ終わっていないことや、環境等の精調査について今後、調査・検討が必要なことから、これらの調査・検討を出来る限り早期に完了し、改めて流域委員会並びに、関係自治体、住民に説明し意見を頂きたいと考えています。